

～～第8458回～～

ドンデン山（佐渡）

～H30. 6. 9-11～

<9日>朝方の天気は、曇り。4:00に静岡駅北口を出発。途中、今回の参加者を拾いながら東名清水ICへ入る。新東名、東名海老名JCT、圏央道、関越道、谷川岳の地下、長さ1万メートルを超える長い関越トンネルを潜り抜ける。そこを出ると新潟県、しばらく走ると六日町、「直江兼続生誕の地」と記された大きな看板が目に入る。3階建ての家が多い。冬場は、相当雪が積もるのだろう。魚沼産コシヒカリで有名な魚沼市、それから長岡市に入る。信濃川が作った広大な新潟平野が広がる。長岡JCTで関越道と別れ、北陸道、新潟中央JCTから日本海東北道へ入り、新潟亀田ICを出て、新潟市街を抜け、10:00に新潟港に着いた。11:30発ジェットfoil船に乗る。空は曇っていて、遠くはよく見えないが、海は静か。1時間ちょっとで両津港に着く。13:00に予約しておいたタクシーに乗り、15分ほどでドンデン山へのアオネバ登山口に着く。ドンデン山は、正式名はタダラ峰といい、900メートル級の3つの山を合わせた高原一帯が「ドンデン山」と呼ばれている。「鈍嶺(どんでん)」とは、頂の丸い山という意味だそうで、大佐渡山地のほぼ中央に位置し、穏やかな山容らしい。付近は高山植物の宝庫で、「花の百名山」に数えられている。この登山口に「佐渡弥彦米山国定公園」と記された大きな表示板が設置されている。この国定公園は、「佐渡地域」、「弥彦地域」、「米山地域」の3つのエリアに分かれており、「佐渡地域」は、島の北部の大佐渡地区、南部の小木地区から構成されている。準備運動を済ませ、アオネバ登山道を登り始める。この登山道は、両津湾に注ぐ梅津川の上流に沿って作られている。みずみずしい大きな「フキ」の葉が茂っている。オオイワカガミ、ヒトリシズカの大きな葉、紫のヤマオダマキの花、ヤグルマソウの白い綿のような花、コケイラン、エンレイソウ、我グループの女性のメンバーには、山野草、高山植物に造詣の深い人が多い。歩きながらの品定めにかまびすしい。2時間ほどで、ドンデン山と金北山縦走路の分岐点アオネバ十字路に出る。タニウツギのピンクのきれいな花が咲いている。二輪草も一団となって咲いている。しばらく歩いて舗装道路に出る。ドンデン山荘まで1.2キロメートルの表示。道路の法面にはタニウツギや上品な朱色のレンゲツツジの花が咲いている。16:00に山荘に到着。雨こそ降らないが深い霧の中、展望はゼロ。山荘は木造2階建て、玄関の左部分は8角形のような外観をしている。その2階はプラネタリウムになっているようだ。きれいな建物で、畳の部屋、2段ベッドの部屋など定員45名とのこと。浴室も小さいがきれい。風呂へ入り、6:00から夕食。山荘にも拘わらず、海が近いこともあり、甘えび、イカの刺身がテーブルの上に載っている。1泊2食付き7,600円。

コースタイム:アオネバ登山口 1335…アオネバ十字路 1520…金北山縦走路入口(舗装道路)1545…ドンデン山荘 1600

<10日>朝5:00に目が覚めた。今日の天気はどうなるのか心配していたが、薄曇り。

窓の外を見るとびっくり、すぐ目の前に海が見える。両津湾、両津の街、加茂湖、右の方に目をやると金北山がくっきりと聳えている。6:30 朝食。7:00 過ぎに出発。舗装道路の両脇には、マーガレットの白い花がいっぱい咲いている。正式名は、フランスギクとのことで、外来種のため、駆除中との表示がしてある。金北山縦走路入口から細い脇道のアオネバ十字路へ向かって下る。うっそうとした原生林、樹齢数百年を超えるような杉の古木が多い。立山の弥陀ヶ原の杉のように、枝分かれして、曲がっている。雪と強い風のせいだろう。さらに「マトネ」と呼ばれる地点を目指して歩を進める。シジューカラの「ツツピー」の鳴き声、ウグイスの声を聴きながら進む。ギンリョウソウの白い怪しげな姿、ツクバネソウ、チゴユリの可愛げな花、1時間ほどして、マトネに着く。さらに進む。シャクナゲがピンクの蕾をはらんでいる。小さな花をたくさんぶら下げたサラサドウダン、紫色のガクの中に黄色い花弁のヤマオダマキの群落、葉が鏡のようにつやつや輝いているオオイワカガミ。杉の原生林を進む。赤ザレ、青ザレと呼ばれるザレ場を過ぎて、11:00 過ぎに「天狗の休場」に着く。風が強く冷たい。風の当たらない場所を探して昼食。昼食後、元気を出して出発。メンバーの一人が楽しみにしていた「シラネアオイ」にようやく巡り合った。緑の大きな葉に紫色の気品のある花、2株。感激。皆、思い思いにカメラのシャッターを切る。「役の行者」と呼ばれる小さな石像が2基。そこを通り過ぎるとなんと残雪が現れ、カタクリの群落、その中にショウジョウバカマも花を開いている。「鏡池」と呼ばれる水たまり、少し大きい「あやめ池」を過ぎるとまたもや残雪、カタクリの群落の中に花を咲かせたシラネアオイが数十株、またもや一同大いに感激。13:00 過ぎに山頂(1,172m)に到着。金北山神社の社がある。風が強く、冷たい。向かいの山は小佐渡山脈、その手前、両津湾、加茂湖、国仲平野、国府川、真野湾と展望がすばらしい。山頂には古ぼけた建物がある。防衛省の施設のような。航空自衛隊佐渡分屯基地が管理する道路(通行にはあらかじめ届出が必要)を下って、15:00 頃に大佐渡スカイライン、白雲台交流センターに着く。目の前の妙見山の山頂に「カメラレーダー」と呼ばれる白い建物のような大きなレーダーがある。北朝鮮からのミサイルに備えた監視システムとのこと。日本海防衛の現実の厳しさを感じた。しばらく休憩して、迎えのタクシーが来た。16:00、今夜の宿泊先「みなみ旅館」に到着。夕食もよかった。珍しいカンゾウの花の天ぷら、年配の女将さんがひょうきんな人で、また、ご主人は佐渡トレッキング協議会のメンバーとのことで、佐渡の花を収めたDVDをみせて頂き、さらに、一人1枚ずつプレゼントまでしていただいた。くつろぎの夕食タイムであった。旅館の後ろの水田には、トキが姿を見せることもあるという。

コースタイム：ドンデン山荘出発 715…アオネバ十字路 740…マトネ 835…天狗の休場 1115 - 35…金北山山頂 1315…白雲台交流センター1450 - 1515=みなみ旅館 1600

<11日>台風5号の影響か、雨。島の北端の大野亀にカンゾウの群落があるということで、そこへ行くことにし、8:00にみなみ旅館をタクシーで出発。運転手の話によると50万本のカンゾウの株があるという。佐渡は、シカやイノシシを入れなかったから

植生が豊かに残っているとのこと。一方では、毛皮を利用するためにタヌキを入れたそう
うで、今もタヌキはたくさんいるそうだ。民家の近くにも出てくるとのこと。また、マ
ムシが多いということで、天敵のテンをいれたところ、テンはサドウサギを食うため、
ウサギが減ったとのこと。また、トキも襲うらしい。1時間で大野亀に到着、1枚岩の
巨岩が海にせり出している。その前面にカンゾウの大群落。なかなかの見ごたえがある。
そこを後にして、高峰秀子と佐田啓二の像が立つ弾崎(はじきさき)灯台へ寄る。両津港
へ戻り、11:15 発のジェットfoilで新潟港へ。マイクロバスに乗り、静岡への帰途
に就く。19:30、無事静岡駅へ到着。素晴らしい山行だった。

参加者：12名（静岡東10、静岡西2）

地図：両津北部・金北山

記録：静岡東支部 F・M



ドンデン山荘前



金北縦走路(後方がドンデン山)



金北山山頂



金北縦走路(正面奥が金北山)



オオイワカガミ



シラネアオイ



大野亀(カンゾウ群生地)



トビシマカンゾウ